



BAIEIDO-TSUSHIN

梅栄堂通信

Vol.60

'13春号



創業三百有余年

梅栄堂

〒590-0943 堺市堺区車之町東1丁1番4号
TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672
ホームページURL <http://www.baieido.co.jp>

春の到来を告げるような、上品な香りのハーモニー

名香

九重

香づくり三百有余年
さわやかな白檀の香り 大阪堺 梅栄堂謹製

ここのえ

『ここのえ』は幽玄な水仙の香りを基調に、
東洋的な白檀のほのかな香りを織り込んだ
新しい香りのお線香です。
やさしい春の穏やかな光を感じるような、
柔らかなで、上品な調香の妙をお楽しみください。



●ここのえ 標準小売価格 1,890円 (本体価格 1,600円)

● ● ●
近況報告

梅栄堂社長 中田信浩

東日本震災から、もうすぐ二年がたちます。復旧・復興についての報道が少なくなる中、それでも現地では引き続きさまざまなかたちで懸命な取り組みが続けられています。

一日も早く、皆様の暮らしや産業の再建が進みますことを願っています。

海外に向けても発信しています。

弊社は昨年、東京インターナショナルギフトショーにはじめて出展いたしました。連日熱心なバイヤーにお越しいただきました。今回は輸出モデルとして五カ国語対応で出しております(イマジンシリーズ 茶 系)

ど特に注目をいただいたようでございます。このように梅栄堂では国内

はもとより、海外でも高級線香を広く知って頂くためニューヨークギフトショーへの出展やFace book

インターネットでも(お香・お線香)の情報を常時発信しております。その結果、徐々に成果を挙げ始めており、おかげさまで最近では世界各地

からの引き合いがございます。沈香を配合した高級品の輸出にはその量の多少にかかわらず、日本政府の輸出許可が必要となりますが、弊社ではこういった商品の注文にもきめ細

かく対応させて頂いております。

お線香の原料の今後について

ところで、ご存知のように香材の高

騰が止まりません。白檀をはじめ沈香その他の香材は、かぎりある資源、また需要の大幅な伸びから、価格が

年々高騰を続けています。また、最近のギクシャクした日中関係の影響

で、中国で生産される桂皮、大茴香、山奈等と言った生薬の入手にも色々

と問題が生じています。天然香料を中心とした高級線香を扱っております

すが社と致しましては、なんとか価格の据え置きを考えてまいりましたが、今後の展開次第では近い将来、

価格の見直しを考えざるを得なくなる場合も起こってくるかと存じます。

今後も、できる限りの企業努力は続けてまいりますので、その際にはどうぞよろしくお願致します。



雑感スケッチ



四季彩々

山辺の道 桃の花

薄桃色に染まる、日本最古の道

奈良盆地の東側の山の裾野、奈良から天理を経て、桜井まで続くわが国最古の道、それが「山辺の道」です。日本書紀にも記された

この道ができたのは、古墳時代と考えられ、

古墳、古社寺、旧跡がいたるところに点在するまさしく歴史街道。現代では古代の道を正確に辿ることは難しいですが、山裾の地形そのままに、やや曲折をみせながらのびやかに三十五キロにわたって続く古道は、東海自然歩道の一つでもあり、変化に富むハイキングコースとして人気が



あります。丘を超え、川に沿って、点在する集落の中を歩けば、四季折々に野辺の花が心を癒してくれませんが、とりわけ、春の山辺の道の桃の花は格別。薄桃色の花々が古道をあでやかに彩ります。

山辺の道のハイキングコースは大きく分けて北のコース(天理→円正寺)と南のコース(天理→三輪)があります。桃の花が多いのは山辺の道でも人気の南のコース。石上神宮から大神神社に至る道には崇神天皇陵や、景行天皇陵、さらに檜原神社

が続く、このあたりの周辺には桃畑が数多く点在しています。



原神社周辺では、広がる桃畑の向こうに大神神社の大鳥居や、畝傍山、耳成山が望め、山辺の道の春を満喫できます。桃の花を満喫できる南のコースは、約十四km・約四時間のハイキングコースですが、途中には(天理トレイルセンター)があり、山辺の道の散策マップや、地域の資料がそろっているほか、中継所としてシャワー設備等を備えたハイカーの休憩所となっています。

開花時期 四月上旬
アクセス J口天理駅から徒歩
J口桜井駅から徒歩



香りの情報館



銅の燻炉の下半分。
中に自由に動く火炉が見える

られてきたようだ。
**正倉院の宝物に見る
練り香の名残り**
昨年の秋、恒例の正倉院展が奈良市内の博物館であった。そこにおいて銅の燻炉一点が展示されていた。

では不便であつて、家屋内でも使えるような燻炉が開発された。火熱を使う事は避けられず、安全装置は必要なこと。また室内では焼香ではなく、放香時間の長い燻香が望まれ、香材は従来の抹香ではなく練り香の登場をもたらしたようである。ではこのような変化は何時に始まったのだろうか。香の事が頻繁に書き表されるようになったのは、源氏物語をはじめ、平安時代にはいつてからのこと。そんなことから、「練り香が始まったのは平安時代から」と信じ

▼ある旧家に伝わる
江戸時代中頃の練香玉



七、八世紀のこととしてもよいようである。そして、今では割れてしまっているが、割れ面を

既にも多くの人々の研究済みの資料からして、華やぐ梅の花を詠んだ歌は多いそうである。しかしそれが梅花の香りとなれば気配もないようである。でも梅の花が咲き、花数が増えると共に薫りも増え、遠くにまで梅の香りを送ってくれる。「東風吹かばにおいおこせよ梅の花」と詠んだ気持ちは分かるほどに。紅白の梅の開花は色と香りをふんだんに我々に送り出して、春を告げてくれる。でも万葉集に香の事を詠った詩が少ないことから、古代の日本人の香りの感覚は：頓議論があるようだ。梅花が一輪でも咲いただけで、それに目を奪われ、その思いを素直に詠ったのだろう。しかし、一輪や数輪程度の開花では顔を近づけないと香りを感じる事はない。離れて眺めただけで香りを感ずるのは、いくつもの

火炉は円球形で上下分離式で、自由に回転できる。炉が四方八方どんな位置にあつても、中の火炉は水平の位置を保てるようになっていた。長年の保存のせいだけでなく、たぶん実際に使用された時の余熱のこともあつたのだろう、全体が何となく変色しているようである。正倉院には同様の作りの銀製の燻炉と、もう一点銅の燻炉もある。銀の燻炉の上蓋はいつの頃か不明となつて、江戸時代になって再製されたようであるが、下部分は当初の造りで、時期は

Profile 米田 該典

よねだ かいすけ

Kaisuke Yoneda



所属：大阪大学大学院医学系研究科医学史料室
薬学博士 神戸市生
専攻：文化財の材質調査と保存の科学
薬用資源学 薬史学
薬学時代には正倉院薬物を調査し、博物館へ移籍後は文化財全般に枠を広げ、いつの間にか海外の文化財にまで手を広げつつある。

▼梅の花(練香玉を伝えるお宅の庭で)



香の散歩道

米田 該典(大阪大学大学院医学系研究科)

「東風吹かば
においおこせよ梅の花」

年があける頃ともなると、戸外に足を運べば寒い中にも何となく春を感じることにしばしば出会う。ここ二、三年は冬らしい冬がぶり返したのか、正月に春を感じることが少なくなつた、なんて思っている。これも齢が為せることだろうか：そればかりではないにしても、いったい春を感じるので何なんだろう。それまでの重くのしかかる冬の空に、一条の光をさすような梅の一輪の開花は、やがて瞬間に広がりを見せ暖かさを感ぜさせてくれる。「古代の人々も変わらなかつたのだろう。」との思いから万葉集を繙いてみた：なんて恰好をつける必要はない。

花が咲いたときでなければできないこと。そして香りを放つ時期は、花の色よりも短いこともある。

「焼香」の香りから
「薫香」の香りへ

此の時間の差が万葉集には花の色の歌は多く、香りの歌はないことの違いとなつたのではないだろうか。でも香りが春を演出している事には誰もが気づいていた。そして、そんな自然の香りを何時でも、どこでも楽しむ事ができないか、との思いを古代の人々も抱いていたようである。その頃の香りといえば、広大な仏堂内で焚かれる大量の焼香によるものであつたが、そのうち、生活の場である家屋内の客間や居間でも芳香を味わいたいのと思いが強くなり、次第に「薫香」へと、技術の開発は進んでいったようである。大きな火舎



誰からも
愛される
和の香り



お吸い物を飲み干すときに、吸い口の柚が優しく香る…これはまさしく日本料理でしか味わえない、心憎い演出だと思いませんか。

いまでは、和の香りとして日本料理に欠かせなくなった柚子ですが、原産地は中国の長江(揚子江)の上流地域。わが国に渡来した時期は不明ですが、奈良時代か飛鳥時代であろうと考えられています。柚子は、耐寒性が強いミカン科の常緑の小高木で、枝にトゲがあるのが特徴。五月中旬には、白い五弁の花をつけます。果実は果皮がデコボコした、いわゆる「ユズ肌」で、果汁が多く爽快な酸味があり、血縁種にはスタチ、カボスなどがあります。現在では、高知、徳島等が特産地となっています。柚子は料理の香り付けのほか、柚子のボン酢や、柚子コシヨウな

どの調味料や柚子茶など広く食
品関係に使用されています。

また、最近では柚子独特の
強くてさわやかな香りを
かもしだす重要香気成分
として、「ユズノン」が話
題を呼んでいます。こ
れは黄色い柚子の皮の中
にある油胞とよばれるカプ
セルの中に含まれているとい
われています。

昔から「冬至に柚子湯に入ると一年中
風邪を引かない」という、言い伝えがあります。
柚子には血行を促進させる作用があり、湯船に
入れると精油成分が溶け出して身体を芯から温
めるため、寒さが厳しさを増す冬の季節に備え
るための、生活の知恵から生まれた習慣だった
と考えられます。冬至だけでなく、日頃から柚
子の香りに包まれながらゆったりと入浴できる
ような、ゆとりの時間を持ちたいものですね。

〈今号の表紙/ジンチョウゲ〉

●商品紹介

静かに漂う深い香り

その昔、中国・河北平原あたりに
「すべての香りが集まる国」が
あったといわれています。
いにしえ人が愛した香りを求めて
到達した香りの集大成、
それが《聚香國》です。
沈香、白檀などの高級天然香料
二十種以上を集め、秘伝の技術で
練り上げました、深遠な香りを、
ぜひご堪能ください。



●聚香國 大型バラ詰 5,250円(本体価格 5,000円)

●話題

タカラジエン又堺の旅

CS放送「いにしえ逍遙く旅
タカラジエン」の今回は、伝
統の技や文化を体験する目的
で、宝塚歌劇、宙組の蒼羽
(そらはね)りくさんが堺の街

道を体験。初めてとのことだ
したが、凛とした佇まいでピ
タリと正解、心地よい緊張の
ひとときを過ごされました。
また、産経新聞社主催の《香
道教室》で、四十名の方が香
道を体験されました。

香りの芸術品

線香は、中国で発明され、十
六世紀には堺に伝わりました。
貿易が盛んであった堺の街は
香木が入りやすく、町人文化
にもささえられ、お線香産業
が定着しました。TOYORO

BUSINESS(自然総研)

の特集「この街 この逸品」
では、《香りの芸術品》として
の堺の線香を取り上げ、梅栄
堂が取材を受けました。天然
香料を使い、伝統的な調合を
守りながらも、新しく世界に

も香りを届けたいと願う、中
田社長の熱いメッセージも伝
えられました。

第七十四回 東京インター
ナショナルギフトショー

東京ビッグサイトで行われた
秋のギフトショーで梅栄堂は
「伝統とModernの日本の
ブランド」フェアに出店いた
しました。初日から、たいへ
ん多くのバイヤーにお越しい
ただき、特に、今回は五カ国
語対応のお線香《イマジン》に
注目が集まりました。



▲町家風が好評だった梅栄堂のブース